

# 公衆衛生学講座

## Public Health

教授	稲寺 秀邦	Hidekuni Inadera
助教授	寺西 秀豊	Hidetoyo Teranishi
助手	加藤 輝隆	Terutaka Katoh
助手	橋 信二郎	Shinjiro Tachibana
助手(前)	内田 満夫	Mitsuo Uchida

### 著 書

- 1) 寺西秀豊：保健・医療・福祉・介護の制度。「公衆衛生学」中川秀昭，城戸照彦編，175-211，光生館，東京，2006。
- 2) 有澤宗久，加藤輝隆：「森林薬学」森本兼曩，平野秀樹，宮崎良文編，194-233，朝倉書店，東京，2006。

### 原 著

- 1) Teranishi H., Katoh T., Kenda K., and Hayashi S.: Global warming and the earlier start of Japanese-cedar (*Cryptomeria japonica*) pollen season in Toyama, Japan. *Aerobiologia*, 22: 91-95, 2006.
- 2) Nobori Y., Onodera H., Noda M., and Katoh T.: Estimation of carbon stock in *Fagus crenata* secondary forest using X-ray densitometry. *J. Forest Planning*, 11: 59-66, 2006.
- 3) Villalonga R., Tachibana S., Cao R., Ramirez H. L., and Asano Y.: Supramolecular-mediated thermostabilization of phenylalanine dehydrogenase modified with  $\beta$ -cyclodextrin derivatives. *Biochem. Eng. J.* 30:26-32, 2006.
- 4) Villalonga R., Tachibana S., Cao R., Ortiz P. D., Gomez L., and Asano Y.: Supramolecular-mediated immobilisation of L-phenylalanine dehydrogenase on  $\beta$ -cyclodextrin-modified gold nanospheres. *Journal of Experimental Nanoscience*. 1:249-260, 2006.
- 5) Hirota-Mamoto R., Nagai R., Tachibana S., Yasuda M., Tani A., Kimbara K., and Kawai F.: Cloning and expression of the gene for periplasmic poly(vinyl alcohol) dehydrogenase from *Sphingomonas* sp. strain 113P3, a novel-type quinohaemoprotein alcohol dehydrogenase. *Microbiology* 152:1941-1949, 2006.
- 6) Tachibana S., Suzuki M., and Asano Y.: Application of an enzyme chip to the microquantification of L-phenylalanine. *Anal. Biochem.* 359:72-78, 2006.
- 7) 内田満夫，寺西秀豊，加藤輝隆、稲寺秀邦：富山県における花粉症に関連する生活習慣と環境要因の疫学的横断研究．*厚生*の指標，53:8-14, 2006.
- 8) 寺西秀豊，加藤輝隆，稲寺秀邦，吉田行夫，林 節男：花粉自動計測装置による花粉計測とスギ花粉症患者動向(2004年)．*花粉症研究会会報*，17:8-12, 2006.
- 9) 松井利夫，堀川武夫，和田七郎兵衛，岡島一雄，寺西秀豊：福井県における小・中学生のアレルギー性症状の実態調査．*北陸公衆衛生学会誌*，33:15-21，2006.

### 総 説

- 1) Inadera H. : Endocrine disrupting chemicals and immunological disorders. *J. Environ. Dermatol.*, 13: 66-71, 2006.
- 2) Inadera H. : The immune system as a target for environmental chemicals: xenoestrogens and other compounds. *Toxicol. Lett.*, 164: 191-206, 2006.
- 3) 稲寺秀邦：内分泌攪乱物質（環境ホルモン）のアレルギーへの関与．*アレルギー科*，21: 289-293，2006.
- 4) 稲寺秀邦：環境ホルモンと免疫アレルギー疾患．*皮膚アレルギーフロンティア*，4: 157-161，2006.

### 学会報告

- 1) 寺西秀豊，何 雲，内田満夫，加藤輝隆，稲寺秀邦：屋久島におけるスギ花粉症に関する予備調査．第40回富山県公衆衛生学会，2006，2，富山．
- 2) 内田満夫，加藤輝隆，寺西秀豊，稲寺秀邦：某製造業におけるSF-36を用いた職種別健康評価．第40回富山県公衆衛生学会，2006，2，富山．
- 3) 橋信二郎，桑守祐子，山根 隆，浅野泰久：フェニルアラニン脱水素酵素の部位特異的変異による基質特異性改変．

2006 年度日本農芸化学会大会, 2006, 3, 京都.

- 4) 加藤輝隆: 中部山岳の亜高山帯に生育するオオシラビソの霜輪から初夏の異常低温を復元する試み. 2006 年度「樹木年輪」研究会, 2006, 5, 秩父.
- 5) 寺西秀豊, 何 雲, 内田満夫, 加藤輝隆, 稲寺秀邦, 岸川禮子, 児塔栄子, 平英彰, 吉井エリ: 空中花粉調査から見た, 佐渡, 富山および屋久島の植生比較. 第 18 回花粉症研究会学術集会, 2006, 6, 金沢.
- 6) 林 節男, 寺西秀豊: 季節によるナシ園の植生変化と空中微生物および作業者の花粉症. 第 18 回花粉症研究会, 2006, 6, 金沢.
- 7) 松葉慎太郎, 松野栄雄, 清水昌寿, 山口宣夫, 斉藤真己, 寺西秀豊: 北陸産スギ花粉によるモデル動物の作成—モルモットとマウスによる検討—. 第 18 回花粉症研究会, 2006, 6, 金沢.
- 8) Katoh T.: Reconstruction of the past climate using frost rings of *Abiesmariesii* growing at the timberline in the Japan Alps. 7th International Conference on Dendrochronology, 2006, 6, Beijing.
- 9) Teranishi H., Katoh T., Inadera H., Yoshida Y., and Hayashi S.: Pollen count of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) by an automatic pollen monitor and by the volumetric method, in Toyama, Japan. 8th International Congress on Aerobiology, 2006, 8, Neuchâtel, Switzerland.
- 10) Hayashi S., and Teranishi H.: Seasonal change of allergenic pollens and microbes in the working environment of Japanese pear orchards. 8th International Congress on Aerobiology, 2006, 8, Neuchâtel, Switzerland.
- 11) 橘信二郎, 藤井 正, 浅野泰久: ろ紙血液中メチオニン濃度の酵素蛍光定量法の開発. 日本生物工学会 2006 年度大会, 2006, 9, 大阪.
- 12) 何 雲, 寺西秀豊, 稲寺秀邦: 富山県におけるスギ花粉飛散の経年変動と地球温暖化. 第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006, 10, 富山.
- 13) 内田満夫, 加藤輝隆, 寺西秀豊, 稲寺秀邦: 産業保健現場における職種別健康評価の試み. 第 65 回日本公衆衛生学会総会, 2006, 10, 富山.
- 14) 寺西秀豊, 加藤輝隆, 稲寺秀邦, 吉田行夫, 槻陽一郎, 林 節男: 富山県における花粉自動計測とスギ花粉症患者動態. 日本花粉学会第 47 回大会, 2006, 10, 和歌山.
- 15) 林 節男, 寺西秀豊: ナシ園の植生変化と花粉症対策の空中花粉・微生物カレンダー作り. 日本花粉学会第 47 回大会, 2006, 10, 和歌山.
- 16) 橘信二郎, 桑守祐子, 浅野泰久: フェニルアラニン脱水素酵素の基質特異性改変とメチオニン定量への応用. 酵素工学会第 56 回講演会, 2006, 10, 東京.

## その他

- 1) 稲寺秀邦: 卒後 20 年の同級会. 医報とやま, 1402:45, 2006.
- 2) 稲寺秀邦: 生活習慣病予防のために. 北陸電力富山新港火力発電所・安全衛生研修会, 2006, 2, 富山.
- 3) 稲寺秀邦: 環境ホルモンと生活. 放送大学富山学習センター・面接授業, 2006, 2, 富山.
- 4) 稲寺秀邦: 大学における環境安全・環境配慮に対する取組み. 富山大学水質保全センター報, 15: 4-5, 2006.
- 5) 稲寺秀邦: 職場における心の健康づくり. JR 西日本高岡鉄道部健康講話, 2006, 3, 高岡.
- 6) 稲寺秀邦: 安全衛生教育について. 富山大学附属病院新採用職員研修会, 2006, 4, 富山.
- 7) 稲寺秀邦: 上手な禁煙. 東ソー株式会社 衛生講話, 2006, 4, 富山.
- 8) 稲寺秀邦: 労働安全衛生について. 富山大学杉谷キャンパス: 安全衛生に関する講習会, 2006, 7, 富山.
- 9) 稲寺秀邦: 温熱環境・熱中症対策. 富山産業保健推進センター産業保健セミナー, 2006, 7, 富山.
- 10) 稲寺秀邦: メタボリック症候群と生活習慣病. 港湾貨物運送事業労働災害防止協会日本海地区管理監督者等安全衛生セミナー, 2006, 7, 射水.
- 11) 稲寺秀邦: 過重労働対策の進め方・医師による面接指導の手法. 18 年度高岡市医師会産業医学研修会, 2006, 7, 高岡.
- 12) 稲寺秀邦: 酸素欠乏・硫化水素危険作業技能講習. 富山県労働基準協会, 2006, 7, 富山.
- 13) 稲寺秀邦: 有機溶剤作業主任者技能講習. 富山県労働基準協会, 2006, 8, 富山.
- 14) 稲寺秀邦: 長時間労働による健康障害防止のために. JR 西日本高岡鉄道部健康講話, 2006, 9, 高岡.
- 15) 稲寺秀邦: 職場における安全衛生について. 平成 18 年度東海・北陸地区国立大学等技術職員合同研修会, 2006, 9, 富山.
- 16) 稲寺秀邦: 過重労働対策の進め方. 平成 18 年度全国労働衛生週間説明会 (魚津地区労務担当者研修会), 2006, 9, 魚

津.

- 17) 稲寺秀邦：生活習慣病予防のために・メタボリックシンドロームとは. 富山県労働基準協会砺波支部平成 18 年度全国労働衛生週間説明会, 2006, 9, クロスランドおやべ.
- 18) 稲寺秀邦：過重労働による健康障害防止のための対策. 富山県社会保険労務士会砺波支部労基研修会, 2006, 9, 砺波.
- 19) 稲寺秀邦：MSDS とその活用 富山産業保健推進センター産業保健セミナー, 2006, 9, 富山.
- 20) 稲寺秀邦：過重労働による健康障害を防止するために. 東ソー株式会社 衛生講話, 2006, 10, 富山.
- 21) 稲寺秀邦：産業保健概論 過重労働・メンタルヘルス対策等. 精神科医等のための産業保健研修会, 2006, 10, 富山.
- 22) 稲寺秀邦：酸素欠乏・硫化水素危険作業技能講習. 富山県労働基準協会, 2006, 10, 富山.
- 23) 稲寺秀邦：石綿作業主任者技能講習. 建設業労働災害防止協会, 2006, 11, 富山.
- 24) 稲寺秀邦：メタボリックシンドロームとは. JR 西日本高岡鉄道部健康講話, 2006, 12, 高岡.
- 25) 稲寺秀邦：イタイイタイ病をめぐる話題, 立山マルチパス, 2006, 12, 高岡.
- 26) 稲寺秀邦：生活習慣病の予防-メタボリックシンドロームって, なに. 富山県雇用開発協会職業生活設計セミナー, 2006,12, 富山.
- 27) 稲寺秀邦：健康管理の重要性. 富山県バス協会安全教育研修会, 2006, 12, 高岡.
- 28) 宮野裕希, 寺西秀豊, 何 雲, 林 節男：花粉研究における免疫学的方法—花粉と果実の共通抗原性を調べるイムノプロット法とオクタロニー法—. 花粉症研究会会報, 17: 22-26, 2006.
- 29) 寺西秀豊：花粉症と地域産業活性化. 花粉症研究会会報, 17: 30, 2006.
- 30) 寺西秀豊：アレルギー疾患発症におよぼす環境曝露複合作用に関する疫学的・免疫学的研究. 平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 ( 基盤研究 ( B ) ) 研究成果報告書, 2006.
- 31) 浅野泰久, 米田英伸, 橘信二郎：酵素チップの応用技術研究. 知的クラスター研究別ヒアリング, 2006, 5, 富山.
- 32) 橘信二郎, 桑守祐子, 浅野泰久：分子モデリングによるフェニルアラニン脱水素酵素の基質特異性改変. とやま産学官交流会 2006, 2006, 11, 富山.